

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護継続教育プログラムの開発				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理
	研究分担者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加納 江理
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	榭 みのり
		所属・職名	看護学部・非常勤職員	氏名	三浦 朱香
		所属・職名	看護学部・客員研究員	氏名	黒田 沙織
		所属・職名	訪問看護ステーションエイム・非常勤職員	氏名	塚本 由佳
		所属・職名	JCHO 東京新宿メディカルセンター 付属看護専門学校・専任教員	氏名	森 珠美

講演題目	臨床判断能力育成の教育手法に関する看護継続教育プログラムの開発
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究目的】 本研究では、地域包括ケアシステムの進展や AI の普及に伴う在宅療養者・家族の療養環境の変化に対応した訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護継続教育プログラムの開発を行うことを目的とした。令和5年度研究目標は、実務者を対象とした事例教材の開発に必要な専門知識の共有を目的とするリカレント研修会の企画・運営とした。</p> <p>【成果】 静岡県立大学看護学部 在宅看護学分野・看護実践教育研究センター共催で、訪問看護リカレント研修会を2023年10月21日(土)15:00~16:30にオンライン開催した。プログラム内容は、「看護学生と看護師の思考と臨床判断を培う看護教育」をテーマとして、細田泰子氏(大阪公立大学大学院看護学研究科 看護教育学分野)、森珠美氏(JCHO 東京新宿メディカルセンター付属看護専門学校 専任教員)から、臨床判断モデル(2022年改訂版)及びラサター臨床判断ルーブリック(Lasater Clinical Judgment Rubric: LCJR)日本語版、教育実践(ケーススタディ、フィジカルアセスメント演習)の講義・報告であった。</p> <p>訪問看護リカレント研修会の参加者36名(内訳:大学教員15名、専門学校教員14名、訪問看護師4名、その他3名)に対してアンケート調査を実施し、参加者20名(有効回答率55.6%)から回答を得た。アンケート結果から、プログラム内容について概ね肯定的な評価を得ることができた。本結果からも、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令交付(2020年)に、教育の基本的考え方として「科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う」が明示され、看護系教員の臨床判断能力育成に向けた取組への関心が高いことが示唆された。</p> <p>【今後の展望】 看護継続教育プログラム開発に向けて次の①②③に取り組む。①臨床判断モデルを援用し、実践のための教育に活用する(ケース教材の開発)、②ラサター臨床判断ルーブリックを活用し、臨床判断能力の発達を可視化する(シミュレーション演習内容の洗練)、③学生から看護師へのトランジションの支援では、学習者が実践の状況の中で「思考する」を育む(看護継続教育への応用)</p>